

池田文書の研究(34)

公家華族の書簡(その1)

池田文書研究会

公家華族の書簡は5撰家の内鷹司家、九条家、一條家の3家を含め五辻家、岩倉家、西園寺家、嵯峨家、三條家、園家、高辻家、千種家、徳大寺家、富小路家、中御門家、中山家、錦織家、橋本家、東園家、藤波家、堀河家、万里小路家、柳原家、四辻(室町)家の23家より97通ある。別に関連資料として出入り医師の書簡2通を入れた。これらの書簡を2回に分けて掲載する。

その殆んどは、公家本人及び家扶等が書いた病氣来診依頼状であり、その外謝礼金、贈物の案内状である。

中でも五辻安仲の手紙は、池田謙斎の直弟子竹井(小原)静が代診しているにも拘らず、娘文子の病状を逐一池田謙斎へ報告しているのは、父親の心情をよく表している。

[1] 一條家々扶の書簡

一條家は九條家(藤原北家)より分かれて創立された5撰家のうちの1つ。公爵家。代々朝廷政治、文化の発展に貢献した。一條忠香は幕末公武合体派として活躍。明治天皇の後美子(昭憲皇太后)は一條忠香の3女。

1 明治 年1月5日 (2008)

謹啓、愈御安泰奉賀候、陳は過般御診察相願候市原政樹義未々快気不仕、過日来四五日間体温三十八度一分位ニテ少々モ変リ無御坐候ニ付甚恐入候得共、若近傍え御序被為在候ハ、今一応御診察相願度、本人ヨリ願出可申之処、乍略儀以手紙奉願候、敬具

一月五日 一條家扶 丹下得之
池田謙斎様 侍史

[2] 五辻安仲の書簡

当家は宇多天皇皇子敦実親王の子孫で代々神楽を家業とした。

安仲は弘化2年生まれ。明治39年没。幕末王事に尽力。岩倉遣欧使節団に随行。以後宮内省奉職。明治22年—26年大膳大夫。子爵。(1845—1906)享年62。

1 明治 年8月28日 (60)

今朝は御邪魔申上候、午後御不快之趣御自愛專一ト存候、就てハ態々御念書今日御断、明日御来臨被降候趣難有存候、御快方被成候へハ明日御来臨希上候、午後ニ御坐候へハ生在宅、猶更都合ニ御坐候、右御請如此御坐候也

八月廿八日 安仲
池田謙斎殿 侍史

2 明治 年2月17日 (3147)

(封筒表) 池田謙斎殿 侍史

参上候処御不在ニ付差上

(封筒裏) 五辻安仲

京極病氣ニ付本日は御懇切ニ御来診被下難有存候、御来臨迄ニ帰宅之心得之処、実ニ少時ニテ拝顔を得ず、遺憾且欠礼仕候、何分ニモ此上御治療之義偏ニ懇願仕候、旁参上候処、御留主ニ付一書ヲ呈シ此段相願候也

二月十七日 安仲
池田謙斎殿 侍史

3 明治 年1月12日 (3148)

謹啓、陳は来ル十七日午後四時日本橋区檜物町蔵多屋ニ於テ晚餐進呈仕度候間、御貴臨希望致候、依テ此段御案内申上候、敬具

一月十二日 五辻安仲

池田謙斎殿

追て御賁臨之有無，来ル十四日中ニ御報被下
度候也

4 明治 年3月15日 (3149)

益御安静欣賀候，然ハ愚弟西五辻⁽¹⁾娘正子義発熱
ニ付流行癩疹之心得ニ候処，肺病之趣ニ診察之
由，就てハ甚申願兼候へ共一応貴君御診察被成下
候様只管御頼申上度，遠方殊更恐縮之至ニ御坐候
へ共，何卒御繰合御来臨奉願候，右御願旁大原從
四郎氏参上被致候間，委曲御聞取被下度，尤小子
参上可相願之処，小生も只今承及当惑之仕合，右
相願度如此候也

三月十五日 五辻安仲

池田謙斎殿

- ^{にしいつつじあやなか}
(1) 西五辻文仲 安政6年生まれ。昭和10年没。
五辻安仲の弟。興福寺明王院住職。男爵。
(1859-1935) 享年77。正子はその長女で後
に山口豊男夫人となる。

5 明治 年8月14日 (59)

拜啓、陳は昨日は御来診深忝奉存候，文子⁽¹⁾容体
之義ハ別ニ異状無之候，昨夕ヨリ今朝え至ル脈搏
温度左之通

昨日午後七時三十分

一、脈 九十六

一、温 三拾八度二分

今午前第七時三十分

一、脈 七十八

一、温 三拾七度

右申上度候也

八月十四日 安仲

謙斎殿

- (1) 文子 五辻安仲の娘。明治7年3月生まれ。
明治19年11月28日没。(1874-1886) 享年13。

6 明治 年11月5日・8日・11日・12日(3146)

口代

文子漸次ニ疲労，昨日五時(欠)より呼吸為(欠)
迫り胸部苦シミ，壹時半斗ニシテ相止ム，竹井⁽¹⁾
殿委曲御承知ニ御坐候

三日 夜十二時

温度 高度 三十八度八分

下度 三十七度四分

四日 午前六時 脈 百

温度 三拾八度四分

正午 脈 百拾八

温度 三拾七度四分

三時 六時両度ニ丸薬服ス

午後七時半 脈 百三拾

呼吸 四十六

九時丸薬服ス

五日 午前六時 脈 九十六

温度 三拾七度八分

右之通ニ御坐候，此段申上候也

十一月五日

五辻

池田殿

- (1) 竹井静(旧姓小原) 南部藩出身。嘉永4
年生まれ。明治44年没。池田謙斎の門下生。
明治21年侍医局員侍医補。(1851-1911) 享
年61。

口代

文子昨七日朝已来殊更衰弱甚心痛仕候，足部水気
モ相増候様被(欠)，且眠ムルニ至テ危^(マ)驗之容体ニ
見受申候，昨夕竹井氏御入来，委曲可申上ト存候

六日

温度 午後七時半 高度 三十九度四分

正午 下度 三十七度

七日午前六時 一、脈 百八

一、温 三十九度二分

十時丸薬服ス

正午 一、脈 百廿四

一、温 三十七度

一、呼吸 四十八

午後五時半 竹井殿御来診

一、脈

一、温 三十九度四分

八時十時竹井殿御差図之水薬服ス

十二時丸薬服ス

十二時 一、脈 百二十

一、温 三十九度六分

一、呼吸 四十

今八日午前六時 一、脈 百

一、温 三十八度七分

一、呼吸 三十四

右申上候、恐縮ナカラ御来診之義奉願候也

十一月八日

五辻

池田様

口代

昨日御来臨後同様之容体ニ御坐候、温度ニ於テ
ハ下ラス、昨夕食ハ前日ニ比スレハ聊多量之方ニ
御坐候、下痢ハ無御坐候

九日 脈 午後四時半 多 百弍十

午前九時 少 百

温 午後十一時 高 三拾九度四分

正午 下 三十七度

呼 午後十一時 多 三十六

正午 少 弍十弍

十日 午前六時 脈 百拾

温 三十八度八分

呼 三拾弍

午前十一時三回ノ水薬服ス

全日 正午 脈 百十六

温 三十八度弍分

呼 四十

午後四時三回ノ水薬服ス

全日 午後六時 脈 百

温 三十九度七分

呼 三十四

午後十時三回ノ水薬服ス

全日 夜十二時 脈 百拾弍

温 三十九度二分

呼 三十六

今十一日前六時 脈 百弍十四

温 三十八度六分

呼 三十六

右申上候、黄色之水薬ハ時々見計服用為致候也

十一月十一日

五辻

池田殿

口述

昨日御来診之後異状無御坐候

一昨日 脈 正午 多 百十六

后六時半 少 百

温 后六時半 高 三十九度七分

正午 下 三十八度弍分

呼吸 正午 多 四拾

前六時 少 三十四

十一日 前六時 脈 百弍十四

温 三十八度六分

呼 三十六

全日 前九時半 脈 百

温 三十七度六分

呼 弍十九

前十時三回ノ水薬服ス

全日 正午 脈 百^(ママ) 〇 六

温 三十六度八分

呼 三十

后四時三回ノ水薬服ス

全日 后六時 脈 百弍拾

温 三十九度弍分

呼 三十六

后十時三回ノ水薬服ス

全日 夜十二時 脈 百弍拾四

温 三十八度六分

呼 三十六

今十二日 前六時 脈 百

温 三十九度

呼 三十弍

右之通御坐候、此段申上候也

十一月十二日

五辻

池田殿

[3] 岩倉具視・具綱・具経・家令・家扶の書簡

当家は村上天皇の後裔、久我家の庶流。

具視は文政8年生まれ。明治16年没。王政復

古及び明治4年右大臣として新政府の基礎確立に尽力。公爵。(1825-1883)享年59。

具綱ともつなは天保12年生まれ。大正12年没。富小路政直の長男として生まれ。具視の嗣養子となる(妻は具視の長女増子)。掌典長。公爵。(1841-1923)享年83。

具経ともつねは嘉永6年生まれ。明治23年没。具視の三男。戊辰戦争時活躍し、別家を興す。宮中顧問官。子爵。(1853-1890)享年38。

(岩倉家書簡の内「東大医学部初代総理池田謙斎」上下巻掲載分は除く)

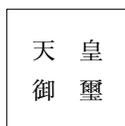
1 明治11年12月11日 (3841)

陸軍軍医監兼二等侍医従五位勲四等

池田謙斎

兼任一等侍医

右大臣従一位勲一等 岩倉具視 奉



明治十一年十二月十一日

2 明治(16)年8月30日 (482)

(封筒表) 駿河台北甲賀町九番地

池田謙斎殿 岩倉具綱

(封筒裏) 緘

一書拝呈仕候、来七日贈太政大臣⁽¹⁾五十日祭ニ付粗飯差上度候間、来六日正午十二時御繰合御来臨被下度、此段御案内申上候也

八月三十日 岩倉具綱

池田謙斎殿

(1) 贈太政大臣岩倉具視 明治16年7月20日没。

3 明治 年10月29日 (480)

御申越之趣承知致候、右は別紙手續書差上候間、右ニテ御承引被下度候、最勅語ヲ賜リ候上、外国人ヨリ御請言上有之候義御座候、先は御請迄ニ如之候也

十月廿九日

具綱

池田様

4 明治17年9月27日 (481)

拝啓、時下益御勇健敬賀之至ニ存候、扱小生義今般露国公使館在勤被仰付不遠発足仕候ニ付ては、何卒御責臨ヲ仰キ緩々御高話拜承仕度、依ては御繰合来月二日午後四時半御枉車相叶候ハ、寔ニ幸福此事ニ御坐候、右要用而已、勿々敬具

十七年九月廿七日 岩倉具経

池田謙斎殿

追て乍御手数一兩日中諾否御一示願添置候、

以上

5 明治 年7月10日 (477)

向暑之節御坐候処、益御安康奉賀候、然は先日來御出張無御滞御帰京珍重被存候、御帰り後間モ無ク甚御苦勞ニ被存候得共、今日歟明日ニテモ御來車被下度候、此段被相願度、如此御坐候也

七月十日 岩倉家令

池田謙斎(ママ)様

6 明治 年9月17日 (478)

御書面拜見仕候、然ハ明十八日御出立ニテ陸地西京へ御出之趣ニ付、主人方え用向之義御尋被下忝奉存候、御心切御申被下候得共、先差当り用向無御座候、未タ残暑難退御道中御厭被成候様專一奉存候、西京へ御着之上は主人御診察之義願入候、仍て右御答申上度如此御坐候也

九月十七日 岩倉家扶

池田謙斎(ママ)様

7 明治 年6月17日 (1292)

拝啓、然は其後貴兄御所勞御容体如何被為在候哉、折角御加養專一ニ祈候、就てハ右大臣公過日來不出来ノ処、別紙電報写御覽ニ入候通追々快復ノ由申参リ、一同少シ安心仕候、此段御承知迄得貴意度如此御坐候、早々頓首

六月十七日 岩倉家扶

池田謙斎殿 侍史

8 明治 年6月17日 (1293)
別紙西京旅館より電報着致候間、御廻シ申候、
早々以上

六月十七日 岩倉家扶

池田謙^(ママ)齊様

六月十七日午後発西京電信写
追々御快方此後御変リナクバ御通知セズ、十
九日御立ハ御止メニナリタリ

9 明治 年11月6日 (1291)
小野保知娘義、養生不相叶午後九時三十分死去仕
候ニ付不取敢此段申上候也

十一月六日夜 岩倉家扶

池田謙齋殿

10 明治 年12月26日 (1296)
乍御麓末折節任到来候ニ付、右府殿より被進候
間、御笑握被下度候也

十二月廿六日 巖倉家扶

池田謙齋殿

11 明治 年9月6日 (1294)
記

一、封書 壱通

右正ニ落手致候也

九月六日 岩倉家扶

池田殿 御使中

[4] 九條道孝・家令・家扶・家従の書簡

当家は藤原北家道長の後裔、5撰家の1つ。代々
摂政、関白を勤めた者が多い。

道孝は天保10年生まれ。明治39年没。戊辰戦
争時奥羽鎮撫総督として功あり。掌典長、公爵。
(1839-1906) 享年68。

3女節子は大正天皇の后、貞明皇后である。

1 明治19年5月12日 (1538)
拜啓、陳ハ今般赤坂区福吉町二番地邸宅普請落成
候ニ付、来ル十九日麴酒進呈致度候間、乍御苦勞
午後四時御来臨被下度、此段為御案内得貴意候、
敬具

明治十九年五月十二日 公爵 九條道孝
侍医局長官 池田謙齋殿
追て御諾否来ル十五日中ニ御申越被下度候也

2 明治 年11月3日 (1543)
拜啓、此御菓子一箱、折角到来合サレ候ニ付、進
呈被致候間御笑納可被下候、草々
十一月三日 九條家令
池田謙齋殿

3 明治 年12月9日 (1541)
拜啓、陳ハ昨日御依頼被致候竹井先生熱海へ御同
行之儀、御同人御承托被成候ハ、乍御面倒御報知
被下度、此段御依頼申上候也
十二月九日 九條家々扶
池田大先生 侍史

4 明治 年12月10日 (1540)
益御清祥奉賀候、扱過日先生へ御依頼致被置候主
人容体書之義、明日宮内省へ差出度候間、本日中
ニ御取計相願度候也
十二月十日 九條家々扶
池田謙齋殿

5 明治 年7月18日 (1542)
陳ハ従一位殿昨夜より少々御風邪氣ニ付、御葉御
加減可被下様願上候、且御都合之節先生ニ御来車
可被下此段願上候、頓首
七月十八日 九條家々従
池田様
執事御中

6 明治 年12月15日 (1537)
益御清康奉賀候、陳ハ此程来ハ毎々御来診忝被存
候、此鶏卵壱折甚タ御粗末之至リニ御坐候得共進
呈被致候、御受納被下度候、敬具
十二月十五日 九條家々扶
池田謙齋殿 侍史

7 明治 年6月29日 (1536)
拜啓候、陳ハ壽子⁽¹⁾殿義、昨夜ヨリ少々御咳ニテ

御安眠モ少々六ツケ敷候間、今朝御診被下度、若シ御不在ニ候ハ、竹井君御来診被下度、此段御依頼候也

六月廿九日 九条家従
池田殿 侍史

(1) 籌子^{かづこ} 九條道孝の次女。大谷光瑞(浄土真宗本願寺派第22代法主)夫人。明治15年生まれ。明治44年没。(1882-1911)享年30。

8 明治 年3月25日 (1645)
拜呈候、陳は籌子殿儀、弥麻疹全身ニ発シ候間、此段申上置候也

三月廿五日 九条家従
池田殿 侍史

9 明治 年11月9日 (1539)
寛姫殿義各位段々御尽力被下候得共、養生不相叶、唯今死去被致候、仍て此段為御知申入候也

十一月九日 九条家従
池田謙斎様
岩佐純様
竹内正信様

[5] 西園寺公望の書簡

当家は藤原北家道長の叔父閑院公季の後裔。代々琵琶を家業とする。

公望^{きんもち}は嘉永2年生まれ。昭和15年没。明治、大正、昭和の政治家。内閣総理大臣、枢密院議長、政友会総裁、パリ講和会議主席全権歴任。公爵。(1849-1940)享年92。

1 明治 年4月9日 (1680)
拜啓、不遠赴任候ニ付留別之意を表し粗酒差上度来十三日午後三時築地寿美屋え御来車奉願上候、於御承諾ハ大幸不過之候、右申入度如此御坐候也
四月九日 西園寺公望
池田謙斎殿 侍史
追て諾否御回答ヲ乞

2 明治26年11月9日 (3485)

(封筒表) 侍医医学博士 池田謙斎殿
賞杯壺箱添

(封筒裏) 緘 賞勲局

従三位勲二等医学博士 池田謙斎

明治廿五年四月東京市神田区猿楽町外廿七ヶ町失火ノ節、罹災窮民救助トシテ金三拾円施与候段奇特ニ付、為其賞木杯壺個下賜候事

明治廿六年十一月九日

賞勲局総裁正三位勲二等侯爵

西園寺公望 印

賞勲局副総裁従三位勲一等子爵

大給 恒⁽¹⁾ 印

(別紙)

賞杯辞令書褒状褒詞到達ノ上ハ左ノ書式ニ倣ヒ郵便端書ニ記載シ差出可有之候也

賞勲局

書式

證

一、辞令書 壺通 褒状褒詞モ亦之ニ準ス

一、木杯 壺個 或ハ壺組

右正ニ拜受候也

年 月 日

姓 名 印

内閣賞勲局 御中

(1) 大給恒^{おぎゆうゆづる} 天保10年生まれ。明治43年没。三河国奥殿藩主。幕末幕府軍政改革に尽力。博愛社(日本赤十字社の前身)の創立に参加。賞勲制度の確立に勤め賞勲局総裁となる。明治40年伯爵。(1839-1910)享年72。

[6] 嵯峨実愛・家扶の書簡

当家は藤原北家閑院公季の後裔。大臣家の1つ。始め正親町三條を称したが、明治になり嵯峨と改める。

実愛^{さねなる}は文政3年生まれ。明治42年没。幕末反幕派公卿の中心として活躍。明治元年内国事務総督、刑部卿歴任。侯爵。(1820-1909)享年90。

1 明治 年11月25日 (1709)

(封筒表) 池田侍医殿 嵯峨実愛

(封筒裏) 緘 十一月廿五日

寒光相加候処御清適奉敬賀候、先般滋宮⁽¹⁾御惱中
ハ段々御苦勞ニ奉存候、御本復御祝酒被下度此段斗
拜啓仕候、尤何等之風情も無之実ニ御勦勞計ニ御
坐候、右当用耳勿々、頓首

十一月廿五日

尚々ご招請之向羽織袴と申入候へ共御都合次
第二奉願候也

(端書) 池田侍医殿 嵯峨実愛

(1) 滋宮^{しげ} 明治天皇第3皇女^{あき}韶子内親王。明治
14年8月3日生まれ。明治16年9月6日没。
(1881-1883) 享年3。

2 明治(16)年10月 日 (1710)

(端裏書) 池田一等侍医

一 御人形 壱箱

右 故滋宮御遺品賜候事

十月 嵯峨実愛

3 明治 年1月25日 (1711)

嚴寒之候御壯栄奉賀候、陳は御繁多中願兼候得共
愚息公勝⁽¹⁾兩三日來熱邪、昨日ハ三十九度余ニ
及ひ、昨夜発汗有之少々快和之処、又今朝來三十
九度余ニ登り候ニ付、何卒御診察奉願度候、自由
之願ニ候へ共可相成早速御見舞被下候へハ別て難
有奉存候、此段御願申度呈寸楮仕候也

一月廿五日午後一時 嵯峨実愛

池田一等侍医殿

(1) 公勝^{きんとう} 文久3年生まれ。昭和16年没。明
治14年嵯峨家の家督を継ぐ。(1863-1941)
享年79。

4 明治 年10月18日 (1712)

口上書

甚御苦勞恐縮候へとも至急御來診之儀相願度候、
愚息儀咽喉相悩困居候ニ付、此段相願候、何卒御

繰合奉願候、頓首

十月十八日

嵯峨実愛

池田侍医殿

5 明治 年9月8日 (992)

嵯峨正二位容体

七日

正午 温 七度三分

午後八時 // 七度二分

八日

午前五時 大便 少々下利

但し昨日より緩下剤服用

右額上腫レ痛も昨日ト同様

左額ノ方ハ先減少之姿

午前八時 温 三十六度

右之外前日ト同様ニ御座候也

九月八日

家扶

池田様

[7] 三條実美・公恭執事・執事・家扶の書簡

当家は藤原北家道長の叔父閑院公季の後裔。

実美^{さねとみ}は天保8年生。明治24年没。幕末尊皇攘
夷派公家の主導者。明治2年右大臣、明治4年太
政大臣、明治22年臨時内閣総理大臣を歴任。公
爵。(1837-1891) 享年55。

公恭^{きみあや}は嘉永6年生まれ。明治34年没。実美の
弟公睦の次男なるも実美の実子となる。後に東三
條家へ入籍する。(1853-1901) 享年49。

1 明治 年1月9日 (1295)

来ル十三日正午十二時延遼館ニテ午餐進呈致度、
御來車ニ於テハ本懐之至ニ存候、右得貴意度如此
候也

一月九日

岩倉具視

三條実美

伊東方成殿

池田謙斎殿

追テ御諾否来ル十二日午前十時迄ニ岩倉家へ
御報知相成度候也

宮内卿輔ヨリ付紙候、請書ハ御銘々ヨリ御差
出し相成方可然存候

2 明治17年1月14日 (1824)

(封筒表) 池田一等侍医殿

(封筒裏) 緘 三條実美

熾仁親王

為新年祝賀来ル廿一日晚餐差進度候間、午後六時鹿鳴館へ御来車之程致冀望候、此旨御案内申進候也

十七年一月十四日 熾仁親王⁽¹⁾

三條実美

池田一等侍医殿

追て来ル十八日迄ニ諾否御報煩し度、且燕尾服御着用相成度候也

- (1) ^{たるひとしんのう}熾仁親王 天保6年生まれ。明治28年薨去。皇族。嘉永元年仁孝天皇の猶子となり翌2年親王宣下。4年皇女和宮との婚約を結ぶが公武合体により婚約破棄に至る。明治元年倒幕軍東征大総督。明治4年有栖川家を継ぐ。草創期の陸軍首脳を務める。(1835-1895)享年61。

3 明治 年8月1日 (1825)

来八月七日有爵者へ賢所参拜被仰付候ニ付テハ、其節別紙賢所神前へ奉捧候様致度、仍テ別紙老葉御廻申入候也

八月一日 従一位公爵 三條実美

従五位子爵 安部信順⁽¹⁾ 殿

追テ臣ノ字ノ下へハ細字ニテ名ヲ書シ、年月日ノ下へハ官位勲等爵号姓名等総テ自筆ニテ御書加へ相成度候也。(印刷物)

- (1) ^{あんべのぶまさ}安部信順 当家は駿河今川氏の家臣。後に徳川家康に仕え軍功あり。大名に列し武蔵岡部、三河半原を領地とす。安政5年生。大正10年没。子爵。(1858-1921)享年64。大正2年9月池田謙斎の次男次郎が同家の嗣養子となり^{のぶあき}信明を名乗る。

4 明治 年6月3日 (1821)

(封筒表) 池田謙斎殿 御執事中

(封筒裏) 六月三日 三條公恭 執事

拜啓、然ハ別包金五円四拾三銭、右ハ先般来公恭実母病氣ニ付頂戴致し候葉価乍延引差出候間正ニ御查收可被下候、外ニ金五円ハ此ハ先般公恭奥方並ニ実母、先生え御診察相願候御挨拶トシテ被差出度候ニ付、宜敷御取成ヲ以テ御披露被下度候也、先ハ右迄得貴意度、早々^(お)以上

六月三日 三條公恭執事

池田謙斎殿

御執事中

5 明治 年6月25日 (1822)

拜啓、陳ハ公恭小児事兩三日ヨリ惣身え発物致居候処、右ハ今日ハ全ク癒候得共、昨夜ヨリ少々咳嗽ヲ致居候ニ付何卒謙斎様御序(欠)以テ御存問相願(欠)此段各位迄御依(欠)申上候間、可然御申上之程奉希候、草々

六月廿五日 三條公恭執事

池田謙斎様

御執事中様

追て御都合ニテ咳嗽之御葉耳只今此者え頂戴仕候テモ、又ハ一応御診察被成下候上ニテモ可然様奉願候也

6 明治 年12月28日 (1823)

拜啓、然ハ別封金七円御来診被成下候御礼印迄ニ先生へ進上^(ママ)被至度、可然御取成奉希候、外ニ老円拾六銭葉価トシテ御廻し申候条、正ニ御查收奉願候也、早々^(お)以上

十二月廿八日 三條公恭執事

池田謙斎殿

御執事中

7 明治 年8月2日 (1809)

拜啓、陳ハ主人御診察御依頼被致度候間、今明兩日之内御都合之時刻ニ御来車被下度、此段御依頼可申旨申付ニ候、仍て為其草々頓首

八月二日 三條家執事

池田謙斎殿

追て明三日御来車之御都合ナレハ午後三時迄ニ御来車可被下候也

8 明治 年12月18日 (2578)

拝啓、過般ハ参上、悴達也御診察奉願上、其節御教示之通専ら養生仕らせ候処、日ニ増体力相加り壯健ニ趣難有奉拜謝候、右御礼申上度奉呈片紙候、草々稽首

十二月十八日 福井英晴⁽¹⁾
再白、誠ニ薄義奉恥入候得共、金五百疋⁽²⁾呈上仕候間、御落掌奉冀上候、再拜
池田様 侍史

(1) 福井英晴 三條家々扶

(2) 400疋が1両=1円、500疋は1円25銭となる。

9 明治 年11月1日 (2579)

拝啓、過日ハ再度御来光御診察被成下難有奉鳴謝候、右為御謝礼金千匹呈上仕候間、御落掌奉希上候、草々稽首

十一月一日 福井英晴
池田様

10 明治 年12月31日 (2580)

拝呈、過日来再度御来臨奉願、殊ニ御繁劇之折柄ニ付誠奉恐縮候、将又一昨廿九日御来臨之後昨日之朝下痢一度有之候得共、前日御来臨被為在候故病人大ニ安心仕、誠心目下静まり候故歎気分ニハ少しも障り無御座候間、右容体鳥渡奉申上候、且又拝謝申上度、誠輕微奉恥入候得共、金壹包、鶏卵一箱呈進仕候間、御落掌奉願上候、草々拝陳

十二月卅一日 英晴
池田様
御執事御中

11 明治 年2月9日 (1818)

謹啓、陳は此魚輕微之至ニ存し被申候へ共拜呈致候被申出、此旨主人申聞申候、御笑捨被成下候ハ、大幸之事ニ御座候、為其如^(カ)之御座候以上、拜具

二月九日 三條家家扶
池田先生 座下

12 明治 年2月21日 (1820)

拝啓、然ハ少々御面談被^(ママ)至度儀有之候間、兩三日之中御都合ニて朝夕之内御来駕被成下度旨可申上被申付候、依て此段御照会申上候也、先右まで得貴意度、早々拜具

二月二十一日 三條家家扶
池田 兼 齋殿^(ママ)

13 明治 年10月11日 (1817)

拝啓、愈御清祥奉賀候、然は交肴壺籠甚々龜末之到候へ共進上被致候、御落手可被下候、先は此段可得貴意被申付如斯御座候也

十月十一日 三條家會計
池田謙齋殿

14 明治 年5月5日 (2148)

拝啓、然ハ公恭奥方今暁より産之催シ氣ニ御座候ニ付甚願兼候得共、一応御来診被成下度、此段乍略儀一書奉希候也

五月五日 三條家 富田藤古
池田謙齋様 貴下
尚々御手当御薬リも御用意相願度候也

[8] 園基祥・家扶の書簡

当家は藤原北家道長の次男頼宗の後裔、代々雅楽、神楽を家業とする。

基祥は天保4年生、明治38年10月没、伯爵。^(もとさち)
(1833-1905) 享年73。

1 明治 年8月27日 (877)

(封筒表) 駿河台北甲賀町九番地
池田謙齋殿親展

(封筒裏) 赤坂区彈正坂巽御門内御用邸
園基祥

拝啓、陳は昨日は御診察之事相願候処、早速ニ御入来被下畏入候、一寸以使御礼申上候也、乍略儀以書中御礼申入候、先々昨日同様之中小水二三次有之候、ねつハ昨日の通ニ候、先々静ニ候、御礼申入度、若近辺へ御出之御見舞希上度候也

八月廿七日 基祥

池田謙斎殿

追て呉々も御出御礼厚く申入候也

2 明治 年7月15日 (878)

(封筒表) 神奈川県箱根宮ノ下

富美宮殿下御旅館ニテ 池田謙斎殿

(封筒裏) 七月十五日 日光新湯館

両宮殿下御旅館 園基祥

常宮⁽¹⁾・周宮⁽²⁾ 両殿下日々御機嫌克被為在候ニ付御安心有之度候、今十五日富美宮⁽³⁾ 殿下午後二時卅五分御安着ノ旨恐悦存候、御着後ハ如何ニ被為在候哉、御様子伺度候、実ハ如何哉ト存、呉々も御安事申入居候処へ御安着之電信、十四日ニ御差出之御書中等着ニテ、大安心仕候、貴公ニハ実ニ御苦勞ニ候、何分宜御頼申入候、乍内々林殿より之御様子申来候ノハ、少シモアテニハナラズ候ニ付、乍御面倒時々御様子伺度候、何も昨日之御返事旁如此候也

七月十五日 園三位

池田侍医殿

供奉の侍医中へも宜御申入希入候也

- (1) 常宮 明治天皇第6皇女昌子内親王。明治21年生まれ。昭和15年薨去。竹田宮恒久王妃。(1888-1940) 享年53。
 (2) 周宮 明治天皇第7皇女房子内親王。明治23年生まれ。昭和49年薨去。北白川宮成久

王妃。(1890-1974) 享年74。

- (3) 富美宮 明治天皇第8皇女允子内親王。明治24年生まれ。昭和8年薨去。朝香宮鳩彦王妃。(1891-1933) 享年43。

3 明治25年9月2日 (879)

(封筒表) 駿河台北甲賀町六番地

池田謙斎殿 御執事御中

(封筒裏) 封 明治廿五年九月二日

正三位伯爵園基祥 家扶

拜啓、過日来ハ御遠方之処、毎々御苦勞ニ奉存、然ル所御病人も追々御危篤ニ及候ニ付、此段不取敢御承知迄ニ申入被置度、猶々後日万謝可被申入候也

九月二日

池田謙斎殿 御執事御中 園基祥家扶

[主要参考文献]

- 朝日新聞社編「朝日 日本歴史人物事典」朝日新聞社 1994年11月30日発行
 霞会館諸家資料調査委員会編「昭和新修華族家系大成」上・下巻 霞会館 1984年4月10日発行
 東京大学史料編纂所編「読史備要」講談社 1966年3月30日発行
 池田文書研究会編「東大医学部初代総理 池田謙斎」上・下巻 思文閣出版 2007年2月25日発行
 日本歴史学会編「明治維新人名辞典」吉川弘文館 1981年9月10日発行